

## 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を振り返って

宮崎県立〇〇〇高等学校 保健体育科

〇〇 〇〇

私は、今年度パイロット教員として、新学習指導要領をもとに体育の「体づくり運動」の授業研究・授業発表を行わせていただいた。授業研究や授業発表を行う中で、学んだことや感じたこと、工夫した点が3つある。

1つ目に、『旧学習指導要領』と『新学習指導要領』の違いである。これまで私が学んできた教科目標や指導内容と異なり、新学習指導要領を熟読し理解することに苦勞した。表現の違いや内容が変わっていることも多くあり、学び直す気持ちで授業研究・授業発表を行った。特に、「体づくり運動」の中では、「体力を高める運動」から「実生活に生かす運動の計画」へと名称と内容が変更され、ただ体を動かして体力を高める授業だけでなく、卒業後の生活や自身のライフステージを考慮して運動を継続して行う知識や思考力、計画力などを育成することが求められる内容となっていた。単に運動を行うだけでなく、生涯にわたって運動を継続する資質や能力をより重点的に高めていく必要があると感じた。

2つ目に、生徒が「主体的」に授業に取り組むための工夫である。高校卒業後、自分の健康を管理していくのは自分自身である。教員である我々が決めるのではなく、生徒に考えさせ自己決定させるプロセスを重要とした。工夫した点としては、卒業後の自分自身の進路や環境、ライフサイクルなどをイメージさせ運動の計画と実践を行った。また、体力に関する目標を立てさせ、目標を達成するための課題や運動の計画を立てさせることにした。そして、1人だけで運動を行うのではなく、同じ程度の体力目標の仲間とペアをつくり、仲間と一緒に運動を行うことができる形をとった。そうすることで、運動に対するモチベーションがあがり、より主体的な活動へつながると考えたからである。

3つ目に、生徒が「対話的」に授業に取り組むための工夫である。1人で運動を行うだけでは対話は生まれにくい。仲間と協力して目標や課題に取り組み、課題解決を目指す過程でアドバイスや質問、励ましなどが生まれいく。そのため、今回行った「体づくり運動」の授業では2人組のペアで活動を行った。自分の計画した運動を仲間と一緒にいき、運動計画を実践後にアドバイスや質問を行わせ、互いの運動計画を評価する流れをとった。また、言葉だけで伝えるのではなく、学習カードを作成し、相手のカードへ直接アドバイスや質問を記入する形式もとった。

今回の授業研究や授業発表を通して、様々な変化に対応しながら教育活動に取り組んでいかななくてはならないと感じた。時代の変化に応じ、生徒たちの考え方や置かれている状況も変化している。それらに応じて学習指導要領も改訂され、私たち教員自身にも変化と進化が必要になっている。「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならない」という言葉があるように常に学ぶ姿勢を持ち、進化し続ける教員を目指していく。